

沼津工業高等専門学校		開講年度	令和04年度 (2022年度)		授業科目	日本語	
科目基礎情報							
科目番号		2022-225		科目区分	一般 / 選択		
授業形態		授業		単位の種別と単位数	履修単位: 2		
開設学科		電気電子工学科		対象学年	3		
開設期		通年		週時間数	2		
教科書/教材		『留学生のためのここが大切文章表現のルール』、『留学生のためのアカデミック・ジャパニーズ 聴解 中級』					
担当教員		(教養科 非常勤講師) ,高澤 啓子					
到達目標							
講義や研究発表、学習活動に必要な日本語を聞いて正確に理解し、聞いたことをまとめ、適切な対応が出来る。知識として得た日本語を実際に使用してレポートを書いたり、コミュニケーションが出来る。理系の教科書の読解、講義の聴講、実験・実習を円滑に行うことが出来る。理系の分野の論理的で明快な科学技術日本語と、アカデミックな日本語、日常生活の中で使われる日本語の違いを理解出来る。「日本(人・社会)」という異文化を自国と比較しながら理解し、カルチャーショックを克服出来る。							
ルーブリック							
		理想的な到達レベルの目安		標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安	
評価項目1		日本語を聞いて正確に理解し、聞いたことをまとめ、適切な対応ができる		日本語を聞いてに理解し、聞いたことをまとめ、対応ができる		日本語を聞いてに理解し、聞いたことをまとめ、対応ができない	
評価項目2		日本語を用いて適切にレポートを作成し、適切なコミュニケーションができる		日本語を用いてレポートを作成し、コミュニケーションができる		日本語を用いてレポートを作成し、コミュニケーションができない	
評価項目3		専門的にに関する日本語を適切に理解したり、文化的な違いに適切に対応できる		専門的にに関する日本語を理解したり、文化的な違いに対応できる		専門的にに関する日本語を理解したり、文化的な違いに対応できない	
学科の到達目標項目との関係							
【本校学習・教育目標（本科のみ）】 4							
教育方法等							
概要		日本での留学生生活を送る上で必要なコミュニケーション能力と、日本の高等教育機関で学習研究活動を行うために必要な日本語能力を養う。日本語で表現されていることを理解し、情報同士の関係を理解し、理解した情報を活用して論理的に妥当な解釈を導く能力を養う。基本的に日本語能力試験N2レベル程度の日本語(および一部英語)で授業を実施するので前年度中にN2を取得していることが望ましい。					
授業の進め方・方法		授業計画に従い対面授業を実施します。少人数クラスのメリットを生かし個々の学生と対話しながら授業を進めます。					
注意点							
授業の属性・履修上の区分							
☐ アクティブラーニング		☐ ICT 利用		☐ 遠隔授業対応		☐ 実務経験のある教員による授業	
授業計画							
		週	授業内容		週ごとの到達目標		
前期	1stQ	1週	オリエンテーション		自己紹介。授業の概要、評価基準等が理解できる。地震と防災について理解できる。		
		2週	文法・文型 1		助詞が正しく使える。		
		3週	第1課「富士山」		富士山の特徴・歴史等についての話を聞き、要約できる。自国の山と比較し、発表したり質疑応答ができる。		
		4週	文法・文型 2		ことばの形の使い分けができる。		
		5週	第6課「東京の温泉」		東京の温泉についての話を聞き、要約し、温泉を定義することができる。自国の温泉を探し、東京の温泉と比較し、発表したり質疑応答ができる。		
		6週	文法・文型 3		自動詞・他動詞・受け身の使い方がわかる。		
		7週	第8課「札幌のお祭り」		札幌と四国のお祭りについての話を聞き要約することができる。日本のお祭りと自国のお祭りの共通点・相違点について調べ、発表することができる。		
		8週	文法・文型 4		呼応について理解し、正しく使うことができる。		
	2ndQ	9週	テーマ学習 J L P Tを受ける		J L P T（日本語能力試験）N 2 レベルの問題が解ける		
		10週	テーマ学習 J L P Tを受ける		J L P T（日本語能力試験）N 2 レベルの問題が解ける		
		11週	文法・文型 5		文末表現が正しく調整できる。		
		12週	第9課「津軽三味線」		津軽三味線についての話を聞き要約できる。自国の伝統的な楽器について、津軽三味線と似ているものを探し、その歴史・使われ方・演奏方法などについて発表し、質疑応答できる。		
		13週	テーマ学習 スピーチコンテストに出場する		自分の考えをスピーチコンテストで発表できる。		
		14週	テーマ学習 スピーチコンテストに出場する		自分の考えをスピーチコンテストで発表できる。		
		15週	テーマ学習 スピーチコンテストに出場する		自分の考えをスピーチコンテストで発表できる。		
		16週					
後期	3rdQ	1週	文字・表記 1		ひらがなと漢字をバランスよく使える。		

		2週	第12課「からくり人形」	からくり人形についての話を聞き、そのしくみを要約することができる。からくり記念館のホームページにアクセスし、実物のからくり人形の動画を探して見ることができる。自国にある機械で動くおもちゃについて紹介することができる。
		3週	テーマ学習 学園祭で口頭発表	学園祭で、日本人の来場者に自分の母国について説明できる。
		4週	テーマ学習 学園祭で口頭発表	学園祭で、日本人の来場者に自分の母国について説明できる
		5週	文字・表記 2	同音異義語の中から正しい漢字を選択できる。
		6週	第2課「信号の話」	日本の信号の話を聞き、内容を要約することができる。日本の信号と自国の信号を比較し、形や色の名前などについて説明できる。
		7週	テーマ学習 J L P Tを受ける	J L P T（日本語能力試験）N 2レベルの問題が解ける
		8週	テーマ学習 J L P Tを受ける	J L P T（日本語能力試験）N 2レベルの問題が解ける
	4thQ	9週	文字・表記 3	カタカナを正しく使うことができる。
		10週	第3課「隠れキリシタン」	隠れキリシタンについての話を聞き、日本の宗教の歴史を理解し要約することができる。自国の宗教とその歴史についてまとめ説明したり質疑応答ができる。
		11週	文字・表記 4	読点を適切な場所に打つことができる。
		12週	第4課「水族館」	日本の水族館や水族館で飼育されている魚の話を聞き、水族館の魚と海の魚の違いを理解し要約することができる。自国の水族館についてネットで調べ、紹介することができる。
		13週	語彙・意味 1	話し言葉と書きことばの違いがわかる。
		14週	第5課「ゴリラの食事」	ゴリラの食事のしかたについての話を聞き、要約することができる。自然界の動物と植物の関係について理解し説明することができる。
		15週	語彙・意味 2	似ている語彙・表現から正しいものを選択できる。
		16週		

モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標

分類		分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週
基礎的能力	人文・社会科学	国語	国語	論理的な文章(論説や評論)の構成や展開を的確にとらえ、要約できる。	2	
				論理的な文章(論説や評論)に表された考えに対して、その論拠の妥当性の判断を踏まえて自分の意見を述べることができる。	2	
				文学的な文章(小説や随筆)に描かれた人物やものの見方を表現に即して読み取り、自分の意見を述べるすることができる。	2	
				常用漢字の音訓を正しく使える。主な常用漢字が書ける。	2	
				類義語・対義語を思考や表現に活用できる。	1	
				社会生活で使われている故事成語・慣用句の意味や内容を説明できる。	1	
				実用的な文章(手紙・メール)を、相手や目的に応じた体裁や語句を用いて作成できる。	1	
				収集した情報を分析し、目的に応じて整理できる。	2	
				報告・論文を、整理した情報を基にして、主張が効果的に伝わるように論理の構成や展開を工夫し、作成することができる。	2	
				作成した報告・論文の内容および自分の思いや考えを、的確に口頭発表することができる。	1	
				課題に応じ、根拠に基づいて議論できる。	1	
				相手の立場や考えを尊重しつつ、議論を通して集団としての思いや考えをまとめることができる。	1	
				新たな発想や他者の視点の理解に努め、自分の思いや考えを整理するための手法を実践できる。	1	
分野横断的能力	汎用的技能	汎用的技能	汎用的技能	日本語と特定の外国語の文章を読み、その内容を把握できる。	2	
				他者とコミュニケーションをとるために日本語や特定の外国語で正しい文章を記述できる。	2	
				他者が話す日本語や特定の外国語の内容を把握できる。	2	
				日本語や特定の外国語で、会話の目標を理解して会話を成立させることができる。	2	
				課題の解決は直感や常識にとらわれず、論理的な手順で考えなければならないことを知っている。	2	
				グループワーク、ワークショップ等による課題解決への論理的・合理的な思考方法としてブレインストーミングやKJ法、PCM法等の発想法、計画立案手法など任意の方法を用いることができる。	2	
				どのような過程で結論を導いたか思考の過程を他者に説明できる。	2	

評価割合

	試験	発表	相互評価	態度	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	50	30	0	20	0	0	100
基礎的能力	30	30	0	20	0	0	80
専門的能力	20	0	0	0	0	0	20

分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0
---------	---	---	---	---	---	---	---